

# 令和5年度 なでしここども園 取り組むべき重点事項について【公表用】

## 評価基準

- A かなりできている B ほぼできている  
C あまりできていない D ほとんどできていない

対象者64名(携わっていない項目は未回答あり)

評価項目の数字は人数

番号	重点事項	具体的な取り組み方法	評価				意見・改善策
			A	B	C	D	
1-1	子どもの権利を守る	園や家庭においての子どもの最善の利益を守るための情報や取組を共有するとともに、様々な研修を通して理解を深め、職員全体で対応を考え取り組む。	11	46	1	0	職員間でさらにコミュニケーションを取り、日々の保育に活かしていきたい。 その日の職員のシフトによって余裕のある援助が難しい時もあった。どんな時でも子どもにとって最善の援助ができる体制でありたい。 研修で学んだ内容を活かしてきれていないので、見返したり自分なりにまとめたりしていきたい。
1-2	総合的に子どもの発達を促す	日々保育の中で子どもの喜び・葛藤・達成感など心理面での発達を個々に捉えていく。そのうえで、環境構成を基盤とした連続的、系統的な活動を行っていき子どもの発達を促す。	8	45	0	0	子どもたちの日々の様子を見ながら、どのような遊びが好まれるかを考え職員同士で意見を出し合って環境設定を行った。遊びが盛り上がる中で、十分な数の教材が確保できない時もあったので、子ども達の興味を引き付ける教材を準備していきたい。
1-3	「保育の見える化」を推進していく	新型コロナウイルス感染症の指定感染症5類変更に伴い、交流活動等の制限も緩和する。外部との交流や発信を行うため、徐々に保護者や地域の人と交流する機会を増やしていく。また、ホームページなどを充実させ、情報発信する内容や頻度を増やすことで保護者や地域の方に、子どもたちの成長・育ちや園生活の様子への理解を得る。	5	19	11	0	まだまだ課題があると感じている。一つ一つ前例にとらわれず提案しより良い園、選ばれる園となっていくよう取り組んでいきたい。 ホームページやインターネットを利用した発信方法の幅を広げ充実させるため、職員間の連携をさらに強化していきたい。 他園のホームページを参考にしたりする機会を作り、見える化の「見せ方」を学ぶことで保護者に伝わりやすくなっていくのではないかと思う。 試食会や保護者等も交えた食育に関する集まりを考えていきたい。
1-4	特別支援の充実	特別な支援を要する子ども一人一人への理解や関わり方について、研修等を充実させ専門性を高める。また、訪問支援など外部専門家の助言や支援を受け、日々の保育や適切な保護者支援に活かす。	9	29	3	0	訪問支援での助言を意識するものの、活かされなかったり、保護者への支援にまで至らなかったりした。 バス利用児の中で支援が必要な子どもがいた場合、どのように支援するかを話し合っていく必要がある。 研修や訪問支援の機会が少ないので、関連する資料や教材で学んできた。パート職員も含め、対応について定期的に話し合いをしながら進めていく必要があると思う。
1-5	安心・安全な園生活	令和5年4月から施行となる「子どもの安心・安全対策支援パッケージ」の推進により、子どもの所在確認と、送迎用バスへの安全装置の設置が義務化されたことを受け、令和5年度中に安全装置の設置をするとともに、日々の所在確認(記録、確認、報告)を引き続き徹底して行っていく。新型コロナウイルスなどの感染症対策は、国の方針に沿って、その時々状況に合わせて対応していく。	18	29	0	0	感染症対策等については状況に合わせて対応していきたい。 令和6年度も子どもの安心安全な生活に重きを置き、保育をしていきたい。

## 総合的な評価結果

B

研修や訪問支援で学んだ内容を、日々の保育や特別支援に活かすことができなかった。総合的に子どもの発達をさらに促していきたい。

ホームページやインターネットを利用した情報発信では、まだ課題がある。情報発信の内容や頻度を充実させていきたい。

行事や会議の持ち方、日々の記録等事務処理の方法の工夫が不足している、職員の負担軽減をしながら、子どもと向き合う際に余裕を持てるようにしていきたい。

## 学校関係者評価委員会の評価

令和6年3月14日(水) 10時から保護者アンケートとなでしこども園職員自己評価の結果について話しあいを持った。

出席者 学校関係者評価委員 2名 なでしこども園園長 副園長

- ・全体的に保護者が安心して保育を任せられる経営実践が窺える
- ・園として課題に対しての対応の速さと謙虚さが感じられる(より良い保育を目指そうとする姿勢の表れである)
- ・職員の自己評価と保護者アンケートの両方をする事で、より良い保育の実践となると思う。
- ・クラス全体で行動する際、支援の必要な園児へは保育者の温かいまなざしや、それでいいよと受け止めてあげることで、少しずつ集団に入ることができるようになると思う。ゆっくりとその子を見てあげることが大切である。
- ・前例にとらわれず、行事のあり方を考え、先生方の負担を減らして欲しい。
- ・会議の持ち方は必ずしも全体会議でなくてグループ会議でも良い。工夫をすることで負担を減らせると思う。
- ・地域との連携がC評価が多かったが、「地域との連携」の捉え方が教職員によって様々だったため、評価が厳しくなったのではないかと。例えば、公園で園児が遊んでいる姿を、近所の方が好感を持って見守ってくれていることも、連携の一つと捉えても良い。地域に対して「開く」と「守る」の部分を明確にしていく。
- ・他県でのうずらの卵による窒息死があり、保護者としても心配である。AEDの使用方法などの研修を行っていると思うが、園児が誤嚥した際の対処方法についても研修をしていただくと安心する。
- ・アンケートを見て、おがスマでの感染症の情報を配信するようになり対応の速さに驚いた

## 評価を踏まえ今後改善していく点(職員間で話し合いを持った)

- ・気持ちの良い挨拶をする。
- ・職員が保育室から離れる時は、声をかけ合って不在にならないようにする。
- ・子どもへの接し方や話し方など再度確認し、望ましい対応を行うようにする。
- ・駐車場の外灯は今後整備します。
- ・園だより、クラスだより、その他の文書は整理し、おがスマでの配信にするなど、分かりやすいようにする。
- ・感染症状況は週1回程度、配信をします。←実施済
- ・職務軽減を図り、職員が余裕を持った保育ができるようにしていく。
- ・保育参観、クラス懇談会、給食参観については、実施回数や方法について検討していく。
- ・保護者が職員に相談しやすいように、工夫をしていく。